

平成22年度

一般財団法人むなかた地域農業活性化機構事業報告書

(平成22年9月1日～平成23年3月31日)

一般財団法人 むなかた地域農業活性化機構

## I. 全体総括

設立1期目となる今年度については、短い事業期間（7カ月間）の中での手探りの組織運営となったため、個々の事業については一部当初の計画どおりに実施できなかったものもあるが、総体としては、概ね計画どおりの事業実績を達成した。

当初の事業計画においては多数の新規事業に取り組む予定としていたため、業務量に対する人員不足等の懸念もあったが、集落営農組合法人化支援、雇用システム実証事業、農業体験農園開設支援、域内事業者等との協働による特産品開発、地域農産物PRイベント事業などの新規事業については、ほぼ計画どおりに取り組むことができた。

しかしながら、農地利用集積円滑化事業については、推進体制等の整備、事業内容の周知・普及活動を行ってきたが、農地所有者からの申し出が少なく、また申し出のあった農地についても面的になるよう利用調整を行ったが、条件不利地や面的に繋がる受け手が見つからなかったため、集積面積1.4ヘクタールとなり、当初目標10ヘクタールには届かなかった。また、新規就農アドバイザー制度と新規就農希望者研修への活用についても、今年度は具体的な制度設計の検討と調整に時間を要したため、来年度に繰り越すこととなった。

なお、認定農業者協議会事務等、旧むなかた地域農業振興センターからの引き継ぎ業務については、計画した事業をすべて実施し、参加者数等についてもほぼ前年度並みの実績を達成することができた。

## II. 事業活動の概要

### 1. 担い手経営改善事業

#### (1) 宗像市認定農業者協議会事務局事務

- ①宗像市・福津市認定農業者協議会合同研修会として、雑誌「九州のムラへ行こう」編集長の養父信夫氏を招いて「農村の6次産業化について」と題した講演を実施した。（7/29・参加者43人（うち宗像市23人、福津市20人））
- ②（有）筑後ファーム代表取締役の成清禎亮氏を招いて「農業経営の視点からの体験農園」と題した講演を実施した。（9/24・参加者19人）
- ③11年目（第11回）となる枝豆狩り交流会を開催し、認定農業者と一般参加者との交流を図った。（10/9・参加農業者31人、一般参加者約1,300人）
- ④福津市認定農業者協議会との合同で視察研修を実施し、経営拡大に向けた先進的な取り組みや実情を研究した。（1/24～25・参加者27人（うち宗像市12人、福津市15人））  
視察先：野上耕作舎（うきは市）  
飽田営農センター（熊本県熊本市）  
農業生産法人ココファーム（熊本県菊池市）
- ⑤その他、福岡県認定農業者組織連絡協議会総会、理事会、トップセミナー、福岡県農林水産部長との意見交換会、宗像市農業委員会との意見交換会等へ参加した。

#### (2) 宗像地区認定農業者連絡協議会

- ①福岡県男女共同参画センター前館長の中嶋玲子氏を招いて「男女で築く新しい農業

経営」と題した講演を実施した。(3/10・参加者60人(うち宗像市29人(女性9人)、福津市31人(女性8人)))

(3) 宗像地区集落営農組織連絡協議会事務局事務

①各組織の実態や組織が抱える問題点等について意見交換会を行った。(9/29・参加5組織11人)

②視察研修会を実施し、先進的な農業生産法人の取り組みや実情を研究した。(2/12～13・参加5組織8人)

視察先：「農事組合法人大肥郷ふるさと農業振興組合」(大分県日田市)

「農事組合法人多良木のびる」(熊本県球磨郡多良木町)

(4) 集落営農組合法人化支援

曲及び野坂集落営農組合の法人化支援として、宗像市、北筑前普及指導センター、宗像農業協同組合との連携協力により、役員会及び全体会での勉強会等を実施した。なお、両組合ともに法人化計画を1カ年延長(平成24年4月1日まで)するとともに、法人化に向けて具体的な検討作業を行うための発起人会を設置した。

①曲集落営農組合法人化勉強会等

役員会(10/13)、全体会(9/8、9/30、10/17)、総会(2/25)、発起人会(1/14)

②野坂集落営農組合法人化勉強会等

役員会(2/23)、全体会(12/2、2/3)、総会(3/14)

(5) 雇用システム実証事業

平成22年度福岡県経営技術支援対策関係事業費補助金を活用して、域内農家間の労働力融通の円滑化や外部からの労働力の確保を図るため、雇用調整システム構築に向けた調査、研究に取り組んだ。

①域内農家及び関係機関等により、雇用システム実証会議(17人)を設置した。

②県内の先進事例調査を実施した。(1/28・参加者9人)

視察先：久留米市シルバー人材センター西部連絡所(久留米市)

福岡八女農業協同組合(八女市)

③雇用型経営に関する研修会として、中小企業診断士の生田千年雄氏を招いて「地域の雇用労働力調整システムの重要性について」と題した講演を実施した。(3/2・参加者24人)

④域内における雇用労働力活用の現状を把握するため、雇用型経営に関するアンケート調査を実施した。(3/18・対象356人、回収129人、回収率36.2%)

(6) 農業体験農園開設モデル支援

域内農業者の経営改善に向けた取り組みのひとつとして、農業体験農園に係る運営ノウハウの蓄積を図るため、「ダンディ幸一農園」「正助にここ農園」の開設支援(開設スケジュール案作成、募集案内チラシ作成、宗像市及び福津市自治会回覧、ホームページ掲載、プレス発表、説明会補助等)を行った。

①「正助にここ農園」利用区画数15区画(平成23年4月27日現在)

②「ダンディ幸一農園」利用区画数15区画(平成23年4月27日現在)

## 2. 後継者育成支援事業

### (1) 新規就農者育成支援

- ①新規就農相談者への対応のため、統一様式の相談カードを関係機関に配布し、活用を徹底することで、関係機関による情報共有と適切なアドバイスの実施に努めた。  
(相談カード提出済13人)
- ②宗像市、福津市、北筑前普及指導センター、宗像農業協同組合との連携協力により、新規就農希望者に対する合同ヒアリングを実施した。(計3回、対象4人)  
上記相談者13人のうち、域内就農2人、域内農家研修2人、農家面接2人、農業大学校入学2人となった。
- ③関係機関等との協議を重ね、今後、域内での新規就農支援策の体系化と関係機関のさらなる連携強化を図ることとした。(合同ヒア実施、農家研修制度の拡充、市民農園、農業体験農園の活用など)
- ④新たに開設したホームページにおいて、新規就農相談に係る情報発信のコーナーを設けた。
- ⑤域内新規就農者募集案内チラシを作成した。(23年度配布開始予定)
- ⑥主に農外からの新規就農希望者等を対象とした就農活動座談会を開催し、新規就農活動に関する情報交換を行った。(3/24・参加者7人)

### (2) 若手女性農業者育成支援

- ①若手女性農業者交流会を開催し、クリスマス・トピアリーづくり及び米粉パン試食を通して若手女性農業者間の交流を深めた。(12/7・参加者11人)
- ②交流研修会として、農産物直売所「ほたるの里」組合長の安川千鶴子氏を招いて「女性の農業経営参画について」と題した講演を実施した。(3/3・参加者16人)

### (3) 青年農業者育成支援

- ①北筑前アグリネット(農業士・女性農村アドバイザー連絡協議会、事務局：北筑前普及指導センター)に対して、活動助成金として40千円を交付した。
- ②宗像地区青年農業者会(事務局：北筑前普及指導センター)が実施した平成22年度宗像地区青年農業者ふれあい農業体験交流会に対して、助成金として58千円を交付した。(11/7・参加者17人)

## 3. 生産流通振興支援事業

### (1) 直売所振興支援

- ①宗像産農産物加工品等の知名度向上と消費拡大を図るため、「ふれあい広場ふくま」において、宗像育ちシリーズ(米・醤油・味噌・豆腐・テンペ商品等)試食宣伝販売を実施した。(10/20)
- ②宗像地区の常設直販施設(5か所)との情報共有、連絡調整、域内農産物等の消費拡大を図るため、宗像地区直販連絡協議会(事務局：北筑前普及指導センター)の事業として、直売所スタンプラリー(10/23~11/30・応募1325通)、安全・安心農林水産物関連制度説明会(8/19・参加者194人)、直売所リーダー・売場担当者研修会(3/17・参加者19人)等を開催した。

## (2) 域内流通振興支援

- ①域内市民の宗像産大豆をはじめとする農産物に対する理解促進のため、「宗像産大豆巡り」として、一般参加者の募集による地元産材料の宗像育ち商品のテンペ工場や大豆圃場の見学、味噌づくり体験などを実施した。(11/10・参加者20人)
- ②宗像育ちシリーズ(米・醤油・味噌・テンペ商品等)に対する関係団体職員の理解を深め、販売拡大を図るため、商品の紹介、発注、受け渡しの取りまとめ等を行った。(2~3月)注文数295商品、販売額65,770円)
- ③地元農産物の消費拡大PRのため、むなかた吉武食育の郷づくり協議会の事業として、第2回新米と秋野菜フェアを開催した。(11/3・参加者約3,500人)また、当該イベントの開催経費の一部として、助成金(194,934円)を交付した。

## (3) 特産品開発

- ①むなかた産農産物を使用した新たな特産品を開発するため、宗像特産品でまちづくりの会(事務局:正助ふるさと村)の事業として、宗像産の牛肉、米粉、野菜などを使ったオリジナルの惣菜パン「むなかたバーガー・ポケット」を開発した。(11/20・「ゆめタウン宗像」で試食会を実施、平成23年4月中旬から道の駅むなかたで販売開始)
- ②福津市内におけるあんずを中心とした今後の果樹の産地づくりについて合意を図るため、JA、北筑前普及指導センターの果樹担当者と特産品開発担当者会議を開催した。(3/16・参加者4人)

## (4) 地域農業理解促進

- ①域内市民に対する農業理解の促進を図るため、平成23年度実施予定の田んぼアート事業における検討会議(計7回)を開催し、具体的な事業内容の検討、課題の整理、実行計画、実施体制について協議・決定した。

## 4. 農地利用集積円滑化事業

### (1) 推進地区(集落)の設定に向けた活動

- ①津屋崎地区の大規模農家7名と打合せを行い、23年度の耕作地状況を基に面的集積に向けた話し合いを行うことで了解を得た。(12/29)
- ②面的集積を推進していく上で必要な情報等を得るため、1月に宗像市・福津市管内の水田耕作地のある農家を対象に農地の貸借に係るアンケート調査を実施した(配布件数約2,000件、回収1,431件、回収率71.6%)。

### (2) 事業の周知・啓発活動

- ①事業の周知を図るため、農地所有者用と耕作者用の2種類の事業紹介チラシを独自に作成した。農地所有者用チラシは、宗像市の協力を得て次年度の利用権設定の更新者に、耕作者用チラシは宗像市・福津市の水田耕作地のある全農家(約2,000件)にそれぞれ配布し、周知を図った。
- ②宗像地域水田農業推進協議会が行う集落推進員会議(1月18日~31日・8地区)において、各地区役員に事業の説明を行った。

(3) 農地の貸借に関する相談窓口業務

①市に提出する利用権設定申出書の記入指導や取次業務を行った。

②農地所有者からの相談を受け、関係機関と連携して受け手となる耕作者探しを行った。(相談受付件数所有者14件)

(4) 農地所有者代理事業の実施

①4件の農地所有者と委任契約を締結し(宗像市13,668㎡、福津市8,758㎡)、受け手となる2件の耕作者と利用権設定を行った。

②上記のうち農地利用集積事業の対象となった3月公告分13,668㎡については、国から273,360円(20,000円/10a)の利用集積交付金を受けたため、うち164,016円(6,000円/10a)を農地所有者(3件)と受け手の耕作者(1件)に参加奨励金として交付した。

5. その他の事業

(1) 農業者だより創刊号発行

域内農家向けの情報媒体として「農業者だより創刊号」を発行し、宗像農業協同組合広報誌「ベジタブル」1月号とあわせて配布した。(4,700部)

(2) ホームページ開設

主に市民一般向けの情報媒体としてホームページを開設し、地域農産物の消費拡大PR、域内新規就農者募集PR、農地利用集積円滑化事業PRなどのコンテンツをアップロードした。(3/9)

(3) 第32回農業功労賞表彰

J Aむなかた農業まつりにおいて、第32回農業功労者表彰を実施し、安川千鶴子氏(宗像市)、井ノロツヤ子氏(福津市)、名残みどりの会(宗像市)をそれぞれ表彰した。(11/27)

Ⅲ. 業務管理の概要

1. 理事会 開催2回

(1) 平成22年9月27日開催(臨時)

場所: 宗像市役所北館202会議室

第1号議案

一般財団法人むなかた地域農業活性化機構管理運営規程(就業規則等)の設定と承認について

原案のとおり承認可決。

第2号議案

経営検討会議(運営会議)の設置規程(案)の設定と承認について

原案のとおり承認可決。

(2) 平成23年2月2日開催(臨時)

場所: 宗像市役所304会議室

第1号議案

業務執行に関する基本方針について

原案のとおり承認可決。

第2号議案

(財) むなかた地域農業活性化機構運営会議設置規程の設定について

原案のとおり承認可決。

第3号議案

(財) むなかた地域農業活性化機構組織体制の修正について

原案のとおり承認可決。

第4号議案

理事会規則の設定について

原案のとおり承認可決。

第5号議案

就業規則の一部改正について

原案のとおり承認可決。

第6号議案

事務決裁規程の一部改正について

原案のとおり承認可決。

3. 登記

平成23年3月31日 理事変更登記

退任 富田伸介・小樋和成

4. 在勤者数（平成23年3月31日現在）

事務局長（業務執行理事）	1名
事務長	1名
事務局員（宗像市から派遣）	1名
事務局員（福津市から派遣）	1名
事務局員（宗像農業協同組合から出向）	1名
事務局員（嘱託職員）	1名
事務局員（臨時職員）	2名
計	8名